

## 韓国の山岳地帯の概要、登山状況、国立公園の管理、救助体制について

国立登山研修所 専門職 東 秀訓

以下の概要は平成 25 年 9 月 8 日(日)～9 月 13 日(金)に大韓民国国立公園管理公団国立公園生態探訪研修院で国立公園安全管理担当職員救助力量強化教育研修会に参加し、大韓民国国立公園管理公団職員及び消防・警察の救助隊より聞き取り調査をしたものである。

### 韓国の山岳地帯の概要

濟州島の漢拏山(標高 1,950m)を最高峰として小白山脈の南端の智異山(1,915m)雪岳山大青峰(デチョンボン)標高 1,708m と続く。主に花崗岩の岩峰群で構成されている山が多く、独特の景観を示す。冬季には積雪を見るが、夏期は頂上付近まで樹林であり、日本アルプスの高山帯に属する山はない。登山の対象となる山岳地帯は16箇所の国立公園に指定され、国立公園管理公団が管理している。

### 韓国の登山状況

北漢山国立公園の入山口で5日間研修を行なったが、年間400万人の入山者があるといわれるのも納得できる幅広い年齢層の多くの入山者を見た。韓国の一般登山形態はハイキングやトレッキングといった軽度の登山で、主に日帰りが中心である。雪岳山や南部の智異山では山小屋に宿泊して縦走形態で登山が出来るようである。近郊の山では登山者がレインスーツ(カッパの上下)やGPSを携行することもまれなようである。入山時間が規制されない山域では、入下山の遅い登山者も多く見られた。登山のガイドブックや登山雑誌の販売状況を確認したかったが、研修地の付近は住宅街で書店に行くことが出来なかった。生態探訪研修院のスタッフに聞いたところ登山情報はインターネット

を検索して得ることが多いそうだ。国立公園の管理状況で後述するが、国立公園内の道標はよく整備されていて、日本の観光地図程度でもさほど不便は感じないようである。

## 国立公園の管理状態について

大韓民国の山岳地帯はほとんどが国立公園であり、国立公園管理公団が管理・整備・保護しており、国民に広く開放され広大な公園として機能している。登山ブームや健康志向から入山者も多いが、全ての登山口および山中の主要地点には管理公団の詰所が設置され、情報提供・監視・入山規制を行っていることから、登山者の安全管理を積極的に行う姿勢が見られた。道標の整備はもちろんであるが、登山道の随所に、その地点の番号、QRコード、消防やレンジャーステーションの電話番号を記したポストが設置されていた。韓国中の国立公園内で携帯電話が通じない場所はほとんどないとのことで、このポストの有効性は大きいと思われる。なお、国立公園内では、雨の日の入山規制、宿泊やキャンプ禁止、入山時間の限度など罰則を伴う法律も定められているようである。

## 救助体制

登山の事故は2008年に700件で徐々に減って昨年度で300件台となったそうだ。事故が多い理由の一つには登山人口が多いことがあげられるであろう。多い遭難事故への対策であろうか、韓国の救助体制やパトロールはかなり進んでいる。前述のようにほぼ全域が携帯電話の通話エリアであり、救助要請とそれに答える救助体制も良く確立されている。韓国の救助に関わる人員数も救助のための装備なども、日本に比べたら桁違いの量で質も高い。救助に携わる機関は山域ごとに微妙に異なるようであるが、消防を中心として、国立公園管理公団安全管理担当職員、警察の救助隊が合同で救助活動に当たる。ヘリコプターは消防もしくは山林省のものが出動する。